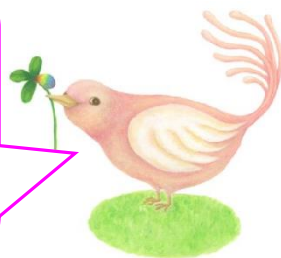


ボランティアさん大募集～!!

こどもと遊ぶのが好きな方、事務局のお手伝いを一緒にして下さる方、お待ちしております。

よろしくお願ひ致します。

アドレス: power-of-children@ezweb.ne.jp



<後援会員&寄付募集中です!>

まだまだ活動が始まったばかりの小さな団体です。活動は、みなさまの会費と寄付金で行っています。ご理解とご協力をお願いいたします。

後援会員費 … ご入会頂くと「こどものちから通信」をお届けします。

◎個人3,000円/年 ◎団体(1口)10,000円/年

ご寄付 … みなさまのあたたかいお気持ちは、きょうだいさんの笑顔を増やす活動に大切に活用させていただきます。

郵便振替番号: 00170-7-571697

口座名: 特定非営利活動法人こどものちから

お問い合わせは、住所: 〒136-0073 東京都江東区北砂5-20-18-211

Tel: 080-6867-6135

アドレス: power-of-children@ezweb.ne.jp

ブログ: <http://kodomonochikara.web.fc2.com/>

「特定非営利活動法人こどものちから」事務局までお願い致します。

<協力団体>※カフェ・アリエッタ

<発行>

「NPO法人こどものちから」事務局

〒136-0073 東京都江東区北砂5-20-18-211

TEL: 080-6867-6135 アドレス: power-of-children@ezweb.ne.jp

<http://kodomonochikara.web.fc2.com/>

口座名称: NPO法人こどものちから 振替口座(郵便局): 00170-7-571697

ちなみこ私の名前
募集中です



こどものちから



<事務局・斉藤晴美 作>

Merry X'mas & Happy New Year !!

NO.6 2013.12月発行

東京都中央区築地にある



病院の小児待合室で活動しています。

私たちは、病院に連れてこられた病棟に入れないうだいさんと遊んだり、おしゃべりをしたりして、一緒に楽しく過ごす活動をしています。

私の三男が小児がんになった16年前、小学生であるという理由から長女は病院に来て病棟に入ることは許されませんでした。平日の放課後は自宅で、休日は病棟入口のロビーにある長いすに座って、私たちが来るのをひとりで待ちました。ときには、遠い親戚に預けたこともありました。目の前にいる病気のこどもが最優先になってしまうのは仕方ないことでした。しかし、三男が亡くなった後に長女に変化が起きました。長女の心は大きく傷つき、その傷が癒えるのには長い年月が必要でした。

病気のこどものきょうだいは、きょうだいが病気になったのは自分のせいだと思ったり、疎外感を持ったり、看病に忙しいお母さんに心配をかけてはいけないと思って自分の感情を閉じ込めてしまったり、つらい気持ちを一人で抱えこんでしまうことがあります。また、きょうだいに会えない淋しさや辛い思いをしているきょうだいのことを思って胸を痛めている患児がいます。そして、病気の子もきょうだいも同じように大切な存在なのに、どうすることも出来ない親御さんがいます。

そこで私たちは、きょうだいさんと親御さんが安心して一緒に遊んで過ごせる交流の場、お花見や焼きいも、バーベキューなどのイベントを通して家族同士が交流できる場を作り、きょうだいさんが安心して楽しく過ごせる居場所を増やす活動を広げていきたいと考えています。

今また小さな種が、やがて芽を出し大きなたくましい木に成長できるよう、みなさまの応援よろしく願いいたします。

代表 井上るみ子

※国立がんセンター12階、小児待合室での活動

小児待合室できょうだいさんと遊んでいます。

一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

毎週月曜日と木曜日、毎月第2土曜日と第4日曜日

午前11時～午後2時(変更あり。)

< 活動報告 >

- ◎小児待合室で、きょうだいさんと遊びました。
- ◎10月3日(木)国立がんセンター小児病棟いるか分教室に奥野勝利さんをご紹介し、特別授業をして頂きました。
- ◎10月18日(金)日本福音ルーテル社団にて、リラ・プレカリアのパストラルハーブを聴く体験と話し合いに参加。
- ◎10月26日(土)中央区築地社会教育会館にて、定期交流会。
- ◎11月4日(月)潮風公園バーベキュー広場にて「やきいも&お肉もあるよ」実施。
- ◎11月10日(日)東京おもちゃ美術館主催「病児と遊びのセミナー」に参加。
- ◎11月16日(土)シスター・キャスリン主催、「心と身体のケア体操・キャパシター」に参加。
- ◎11月29日(金)～12月1日(日)小児がん学会・小児看護学会・がんの子供を守る会主催「福岡シンポジウム」参加。 . . . 《感想》 . . .



2000人近くの参加者があり、6つの会議室もロビーも人で溢れていました。シンポジウムでは、医療者・患者・家族などなど、いろんな立場の方々の話しを聴くことができました。

三重大学病院や聖路加病院で既に行われている、きょうだい支援の内容や効果について報告がありました。発表では、小学生以下のきょうだいが病棟見学をして、病気のきょうだいの病院内での生活を理解する取り組みも行われているとのことでした。また定期的

にきょうだいが主役になったり、同じ境遇にある他のきょうだいと知り合うイベントを開催することで、孤独感、疎外感を緩和する一助になると考えられるという報告もありました。現状を知ることやみくもに不安になったり、自分を責めたり、よい子になりすぎたりすることを避けることが出来ると思えました。きょうだいは、きょうだいらしく生きて欲しいと言うのが親の願いです。だからこそきょうだいも家族の一員として置き去りにしないために、病気のこどもがどのような状況にあり、どのようなところで、どのようなことが行われているのかを知らせる必要があるのですね。そしてきょうだいが元気でいられるように、周囲の人が寄り添い方を考える必要があると今回のシンポジウムに参加して思いました。こうして病気のこどもだけではなく、きょうだいのことをたくさんの方が関わるようになりました。きょうだいからの「『今日、何があったの?』『どうしたの?』と聴いて欲しい。」という願いが印象に残りました。

< 今後の予定 >

- ◎小児待合室で、きょうだいさんと遊びます。
毎週月曜日と木曜日、毎月第2土曜日と第4日曜日
午前11時～午後2時(変更になる場合があります。)
- ◎2月15日(土)「国際小児がんデーの集い」に参加します。
PM13:30～ 千葉県三陽ステイアワーミュージアムにて

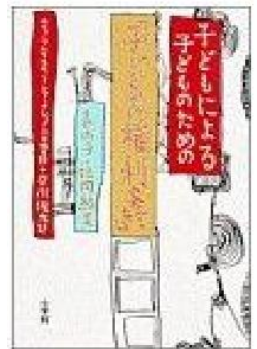
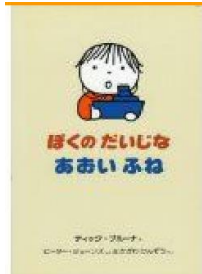
<絵本紹介> ブルーナのやさしい目

静岡県立こども病院医学図書室 塚田薫代

みなさんはミッフィーが好きですか？わたしも大好きです。

ミッフィーの生みの親ブルーナさんが描いた『ちいさなロッテ』という絵本があります。ロッテは車椅子の女の子、最初はボール遊びの仲間に入れてもらえませんが、やってみるととても上手！お友達と楽しく遊びます。シンプルでカラフルな絵がとってもキュート。読んだらうれしくなりますよ。ブルーナさんの絵本には、ほかにも『ぼくのだいじなあおいふね』『ちいさなあかちゃんこんにちは！』など、障がいや病気がテーマの本が多くあります。“どんな子もしあわせになってほしい”というのがブルーナさんの願いです。

そう、どんな子にもかけがえのない命と権利があります。それを謳ったのが【こどもの権利条約】です。“ぼくらは生きていいんだ。だから、どんなときも、ぼくらが元気に生きて、育っていけるように、できることは全部してほしい”『子どもによる子どものための子どもの権利条約』健やかなときも病めるときも、大人が包み守ってゆきたい宝です。



*ちいさなロッテ：講談社 2000

*ぼくのだいじなあおいふね：偕成社 1986

*ちいさなあかちゃん、こんにちは：講談社 2007

*子どもによる子どものための子どもの権利条約：小学館 1995

<小児待合室で人気のおもちゃ紹介>



11月早々に「こどものちから」から小児待合室に5点ほど、おもちゃを追加しました。その中の一つです。「これ、な～に？」まるで小さなかまぼこ板のような木。積み木？「どうやって遊ぶの？」2枚の板をぶつけると木のとってもいい音がする。床の上に並べて、プールが出来たり、お風呂になったり。立てて並べてドミノ倒しや線路が出来た。どこまで高く積めるかな？200枚の板を慎重に高く積んで、揺れるとドキドキしちゃう。シンプルだから発想しだいで何でもできちゃう。性別・年齢関係なく楽しめるおもちゃの名前は“カプラ”でした。

井上るみ子



「こどものちから」 お楽しみイベント 第4弾 「やきいも & お肉もあるよ」



実施日時：2013年11月4日(月) 12時～14時30分
実施場所：潮風公園バーベキュー広場

住所：東京都品川区東八潮1-2

患児5名、きょうだいさん3名を含め、総勢30名が参加しました。

小雨降る中で開始したやきいも会でしたが、ご寄付頂いたたくさんのおいしいお芋とお肉でお腹いっぱい、

笑顔いっぱいの楽しい時間となりました。

次回は、お芋を使った簡単クッキングもきょうだいさんと出来たらいいな～と思っています。

※参加して下さった方からの声

- ・雨には降られましたが色々な方との交流が出来て良かったです。
- ・新しい出会いもあり、楽しく、有意義な時間でした。



<こどもにやさしい医療を目指して>

～子ども療養支援士からごあいさつ～

はじめまして。子ども療養支援士の本田真己子です。2013年4月より国立がん研究センター中央病院小児腫瘍科にて勤務させていただいております。この職業の名前をはじめて目にする方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

子ども療養支援士は、多職種からなる医療チームの一員として、ひとりひとりのこどもと家族の医療体験がよりストレスの少ない、怖くないものになるようお手伝いをする日本の専門職です。すでに欧米では、1950年代から、チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)やホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)と呼ばれる専門家により、医療環境にあるこどもと家族を、心理社会的な視点から支援する活動が始まっており、その効果が研究で証明され、1970～80年代にかけて発展してきました。子ども療養支援士は、それらの専門家の活動にならって、日本の文化・社会に沿った考え方や方法に従い、病院というストレスの多い環境下でこどもの不安を和らげ、本来の成長発達を保障し、こどもと家族を中心とするケアを提供することを目指しています。

こどもひとりひとりを「力ある存在」として認め、「こども目線」を大切に、とくに、こどもの日常生活そのものである「遊び」の価値を重視しながら、病院という非日常的な環境であっても、こどもが元来持っている、困難を乗り越える力・前に進む力を十分に発揮できるようサポートします。支援の対象となるこどもの年齢制限は設けておらず、赤ちゃんからAYA世代と呼ばれる思春期・若年成人の方まで、それぞれの個別性に配慮しながら支援を行っています。直接的な医療行為は行いませんが、医療チームにおける医療者の一員として、他職種と連携した活動の中で、こども・家族と医療者がより良い関係を築くことができるよう努めます。

今回は職種の紹介が中心となりましたが、今後、具体的な活動を通して、子ども療養支援士の仕事をわかりやすくお伝えしていきたいと思っています。

そのために、出会ったすべてのこどもにやさしい気持ちで丁寧に向き合い、ときに真っ向から向かい合うだけでなく、横並びの関係を築くことで、寄り添っていきたく強く感じています。どうぞよろしくお願い致します。

本田真己子



<子供の病気について> ～教師の立場からの提案～

家族、親子、家庭といった人の関係性は、日常という平和の裏付けの下に成立しています。夫婦が多少ぎくしゃくしたり、兄弟姉妹げんかをしたりすることがあっても、全員が健康で、昨日と同じように明日が来ることが前提であれば「安心して」言い合うことができます。しかし子供の大きな病気は、そこに大きな衝撃を与えます。

本人にとっては、その小さな世界が壊れてしまう。子供の生活は家庭と学校でできていますから、長期加療となれば両方を失うこととなります。両親の様子も尋常ではないし、白い服を着た人に痛いことをされますので、自分はきっと何かいけないことをしたに違いない、と考える子が大半です。

さて、そうなると学校は出番がなくなってしまう。そこで特別支援教育の出番。特別な教育ニーズに応えることが特別支援教育の使命ですから、分教室や訪問教育によって対応しているのです。これでかなりの手当てができましたね（現場でのいろいろな不足は一旦措いてください）。

ところが、こうした特別支援の枠組みの中で見落とされていたのが、兄弟姉妹が何をどう感じており、ケアやサポートはどうなっているかという視点です。

「こどものちから」の今後の方針が固まってきましたので、そういったことをこのコラムで考えていきたいと思います。

高水英壽

<体内時計について> ～看護師の立場からの提案～

人には体内時計があり、日の入り後から体温が低くなり、入眠。朝方から体温が上昇して覚醒しはじめ、ピークを午後2時にむかえ、活動する・・・これをサーカディアンリズムといいます。夜の町でのまぶしい灯りも、自宅では暗めの暖色照明や目に直接入らない間接照明・優しく揺れるろうそくにしてリラックス。また眠る直前まで、携帯などの液晶画面を見ないように心がけることで、神経も休まります。

私が病棟にいた頃、夜勤の見回りで心を開いて大切な少年時代の思い出を話してくれた患者さん。その方は末期がんで、明るい日中には硬かった表情も、夜には心を少し覗けたようで嬉しく、何か大切な瞬間に一緒にいさせて頂いている気がしました。



夜の帳が降りるころ、昔は一家団欒の何気ない話しの
中から、お互い愛し愛されていることを確認し、安心して眠りにつけたのかもかもしれません。どうぞ眠る前のひととき、側にいる人と気持ちを分かちあってみてください。

小林文香